

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人の理念やグループホームの基本方針を、職員一人一人が把握できていない。職員間において理念を共有することで、入居者様への支援やご家族、地域との関わりを統一する必要がある。	理念や基本方針を共有することで、入居者様やご家族、地域に対する職員の姿勢を統一する。	まずはホームの会議において、法人の理念を職員一人一人に理解してもらい、そのうえで、グループホームの基本方針を理解してもらう。基本方針に関しては、1年ごとに職員と相談した内容を掲げていく。	3ヶ月
2	10	ご家族の中には、ご本人の満足度や望まれていることに関して「わからない」と答えられる方もおられる。面会時にホームでどのような生活を送られているかが分かりにくいと思われる。	日頃の生活の中で、入居者様一人一人に合った役割を担って頂くことで、生き生きとした表情を面会に来たご家族にも見て頂き、満足して過ごしていただけていると安心感を持ってもらえる。	入居者一人一人に合った役割を提供し、生活の中での生きがいを入居者ご自身に感じて頂く。その状況を面会時にご家族へ伝えたり、見てもらうことで、どのような生活を送られているのか理解してもらう。	3ヶ月
3	33	現在、グループホームにおいては終末期の対応をしていない。そのため、終末期に近くなったり重度化の可能性が高くなると、同法人内の事業者や他施設の紹介をし、転居をしていただく必要がある。	出来る限り住み慣れた場所で、終末期を迎えることができるように、ホームでの体制を整える。また、同法人内での転居をした場合でも、法人内の事業所と連携を取り、転居後の関わりを密に取れるようにする。	ホームでの終末期の対応に関しては、法人の方針も考慮をする必要もあり、法人全体で開催する所属長会議などで話し合っていく。ホームからの転居を余儀なくされた方への関わりを密にとることができるよう、転居先への面会などの支援を取り入れていく。	6ヶ月
4	40	食事は、栄養士に献立を立ててもらい、栄養管理をしている。定期的に外食や食事レクを提供しているが、職員と一緒に食事をする場面がない状況である。	職員も一緒に食事をするので、今以上に家庭的な雰囲気での食事を提供できるようになる。	職員も一緒に食事をするに関して、職員の意見も含め実現できるようにすすめていく。	3ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。